

「SDGs Quest 未来甲子園」出張授業 紙上採録

私たちが主役の2030年、ICTは世界をどう変える？



首都圏大会は
12/17(金)まで
参加登録受付中!



高校生たちが社会課題解決のアイデアを競うコンテスト「SDGs Quest 未来甲子園」。その首都圏大会に特別協賛をしているファーウェイが、「アイデアを考えるきっかけになれば」と、都内の中学校・高等学校で出張授業を実施した。メイン講師、ファーウェイ・ジャパンの郭宇さんは、「デジタルでSDGs! ファーウェイと考えるミライのセカイ」と題し、SDGs実現を支えるICTのいまと今後の可能性について解説。高校生らと熱心に意見を交わす一幕もあった。



華為技術日本株式会社
パブリック&インダストリー・リレーションシップ部長
郭宇(かく・たかし)さん



東京女子学園高等学校

食糧危機、温暖化、教育格差…… 多様な課題にICTができることは



いきものカンパニー代表取締役
慶應義塾大学SFC研究所上席研究員
菊池 紳さん



日本が世界に誇れる サステナブルな食料とは

「今朝、何を食べましたか?」。そんな問いかけとともに「食べ物の持続可能性」を考える授業を始めたのは、いきものカンパニー代表取締役の菊池紳さん。「食糧危機、農地枯渇、気候変動など、食べ物をめぐる問題はグローバルで多岐にわたります。でも、自分の食べたものから、その畑や牧場、輸入元……とたどっていくと、この問題は実は“自分事”であるこ



とが分かるでしょう」

例えば「米」。「山の水と栄養で育ち、連作障害がなく、収量が高い。保存性も栄養価も高い。水田は生物多様性が保たれ治水機能もある。米は、世界に誇れるサステナブルな食料です。その生産量を減らす政策は正しいのか。都心に暮らす私たちにできることは何か。どんな技術があれば農家は農業を持続できるか。ぜひ考えてみてください」

生徒の関心が特に高かったのは、「フードロス」の問題について。「供給過剰を引き起こす市場の仕組みそのものを見直すべき時期が来ています。『残さず食べる』だけでは解決しません」と、問題の根本的な原因と向き合うことの大切さも説いた。

水道から飛行機まで 生活に欠かせないICT

続いて登壇したのは、ファーウェイ・ジャパンの郭宇さん。「皆さんはICTって何か分かりますか。ICTはInformation and Communication Technology、情報通信技術のことです。自分には関係ないと思う人もいるかもしれませんが、水道

水の安定供給や飛行機の安全運航など、私たちの生活は様々な場面で、実はICTによって支えられています」

ファーウェイは、ICTを活用した社会課題の解決に挑んでいる。「今日は第四次産業革命といわれますが、その背後で気候変動や食糧問題、格差など、様々な課題も生まれています。我々はICTでその解決に貢献したいと考えています」



STUDENTS' VOICE

グループワークで話題になったのは、コロナ禍の病床逼迫の問題について。病院間や救急車両との情報共有をもっとスムーズにする仕組みができればいいと思いました。

フードロスの原因は供給過剰であるという話が印象に残りました。各家庭の廃棄量を可視化する方法があれば、それに応じた施策も考えられるのではないかと思います。

食べ物に関する問題は、意外なところで影響があったり、自分も関わっていたりするんだなと思いました。今日得たことを家族に伝えたり、もっと調べたりしてこれからは生かしたいです。

東京都立武蔵高等学校

17のアイコンだけでは分からない SDGsの本質、いま一度見直して



神田外語大学
グローバル・リベラルアーツ学部教授
石井雅章さん



「私たちの世界を変革する」 アジェンダはぜひ熟読を

「SDGsの17のゴールを表すアイコンはとても分かりやすいけれど、これだけを見ては、表面的な理解で終わってしまいます。少々ドキッとする指摘をしてくれたのは、神田外語大学教授の石井雅章さん。「具体的な到達点が明記された169のターゲット、その進捗を測る231のインディケータも併せて把握することが大切」とアドバイスした。



例えば、ゴール12「つくる責任つかう責任」では、ターゲット12.3で「2030年までに一人あたり食品廃棄物を半減」させるとあり、その進捗は「食料損耗指数」「食料廃棄指数」という指標で測ると定められている。「これらを知ること、ゴールへの道筋がより明確になるでしょう?」

そして、SDGsのビジョンが記されているのが「Transforming our world(私たちの世界を変革

する)」と題された「2030アジェンダ」だ。「アジェンダの前文だけでも、できれば日本語と英語の両方で、じっくり読み込んでください。SDGsがなぜ存在し、何を狙っているのか。その本質を理解したうえで、皆さんのアイデアを具現化してほしいと思います」

ファーウェイならではの 生態系保護に感嘆の声も

続いて、郭宇さんがファーウェイのSDGsの取り組みを紹介した。

例えば「教育」分野では、南アフリカの小学校にインターネットを接続し学習リソースを提供。すでに2万2000人以上の子どもの識字率向上に貢献している。また、

聴覚障害児の学習・読書をサポートするために、本を手話に翻訳するアプリも開発した。

さらに「陸の生態系」を守るために、コスタリカの森では動物の鳴き声を収集・解析。絶滅危惧種の生息環境の保護や、違法な森林伐採の取り締まりに役立っている。

「SDGsは一人ひとりの関与が大切。皆さんも身近なところから何ができるか考えてみてください」



STUDENTS' VOICE

石井先生のおっしゃる通り、ターゲットやインディケータはこれまで正直気にしていませんでした。行動に移しゴールに近づくために、きちんと読んでみようと思います。

ファーウェイの研究者の自由な発想から新しい技術が生まれていくという話が印象的でした。SDGsの達成は「どうせ無理」とあきらめず、「できることをやる」精神で!

グループワークで話題になった、「ICTの活用によって電力消費が増えるのでは?」という問題はとても興味深かったです。今後も様々な視点から考えていきたいです。

ドルトン東京学園中等部

9年後の自分はどうありたい? 未来の社会をワクワク妄想しよう



グローバル教育推進プロジェクト(GIFT)
代表理事
辰野まどかさん



SDGsは「ムーンショット」 目標から逆算する発想を

「いまは2030年、人類は見事にSDGsを達成しました! さあ、どんな世界が見えていますか?」SDGsを実現した9年後を“妄想”してみようと呼びかけたのは、グローバル教育推進プロジェクト(GIFT)代表理事の辰野まどかさん。

SDGsとは「ムーンショット」、つまり、人類が初めて月を目指した時のような途方もなく壮大な目



標・挑戦であるという。「皆さんも、貧困や飢餓をなくすなんて出来っこない、と思わないで、『絶対に実現する』と決めたら、そこからバックキャストでやるべきことを考えてみましょう」

授業では、「2030年に自分はどこでどんな人と過ごしているか」「自分はSDGsにどんな貢献をしたか」「中高生時代に行動し始めたこと」などを考え話し合った。

「どんな自分になっていたいか、どんな世界になってほしいか。これからも一緒に面白い未来を考え、つくっていきましょう」

誰ひとり取り残さない 世界を実現するために

「ICTを活用してもっと多くの課題を解決できないか、我々は常に挑戦を続けています」とファーウェイ・ジャパンの郭宇さん。

中国では、港でのコンテナの積み下ろし作業に5G遠隔操縦を導入。「危険で過酷な仕事から労働者を解放できるうえ、作業も効率化。女性も従事しやすいのでジェンダー平等にも寄与しています」。また、パンデミックなどで人手不

足の医療現場では、遠隔診断システムを導入・実施しているという。「今後は全世界に広げ、医師や患者さんの助けになれば」

さらに、配送や災害時の対応に役立つ自転車の自動運転技術なども開発中だという。

「2030年、皆さんは大学院生か社会人でしょうか。それぞれの場所で知識・技術を活用し、未来に向けて貢献してくれていると期待しています」



STUDENTS' VOICE

「ムーンショット」と「バックキャスト」の話は、そういう視点でものを考えたことがなかったので新鮮でした。いま進路のことで悩んでいるので、知れてよかったです。

映像で見せてもらった中国・深圳のファーウェイ本社の規模に驚きました。会社の敷地内を電車で移動するなんて映画の世界みたい! いつか行ってみたいです。

ファーウェイが開発している自動運転の自転車は、コマの回転の原理を応用しているという話が面白かったです。発想力で新たな技術を生み出すところが素晴らしいと思いました。

【特別協賛】

